

「ご挨拶」



在日大韓基督教会・浪速教会「愛の家」

牧師 金鐘賢

「20周年から30周年に向けて」

2017年が幕を閉じようとしております。2017年は浪速教会「愛の家」にとっては意味深い年として覚えております。去る2017年4月4日（火）に行われた第20回浪速教会「愛の家」運営委員会において「運営委員会」を解散し、これからの「愛の家」運営は浪速教会に委ねる事を決議しました。「運営委員会」は浪速教会「愛の家」が一番困難な時に支えとなり土台を築く役割を担って来ました。特に2007年教会堂及び「愛の家」センター建築の時は、運営委員一人ひとりが全身全霊で協力して下さり「愛の家」センターが完成いたしました。

2017年7月2日は浪速教会「愛の家」は創立20周年礼拝を行いました。20年の道は何もないところから炊き出しをはじめ路上生活者への宣教支援活動を広げて来た荒れ野の道、開拓の道でした。皆様のお陰で浪速教会「愛の家」は日本において路上生活者への「伝道と奉仕」「福祉と救済」を共に担って行く「愛の家」ならではの活動を行うことが出来ました。貧しい人と共に生きる教会を形成するようになりました。

20周年を迎えて浪速教会は、浪速教会「愛の家」が中心となって「愛の家」の運営、奉仕、募金、人材育成して行こうしております。新しい道を歩んで行く「愛の家」のための皆様の変わらないご支援とお祈り、ご協力をお願い致します。



「ご挨拶」



在日大韓基督教会・京都教会

牧師 林明基

「隣人のための執り成し」

私が初めて「浪速教会 愛の家」を訪問したのは今から約10年前になります。当時、私は神学生として研修会に参加していました。今は新しい礼拝堂ですが、その当時は古い礼拝堂でした。1階作業場の隣にある狭い階段を上って2階礼拝堂に上がったことを覚えています。私はその時、改めて「私の隣人とは誰なのか」と深く考えました。神様が私に「あなたは隣人を愛しているのか」と問いかけておられるような気がしたのです。

新約聖書「フィレモンへの手紙」は、使徒パウロが教会の指導者であり、パウロの協力者でもあるフィレモンに宛てた手紙です。彼はその手紙の中でフィレモンの奴隷である「オネシモ」を解放してほしいと願っていました。ある意味、「個人的な手紙」にも思えるこの手紙がなぜ聖書になったのだろうか。それは、教会の中で「社会的関係」を乗り越えられず、受け入れられない人々がいたからだと思います。すなわち、その当時の「奴隷制度」は社会制度として当たり前のように受け入れられていました。しかし、パウロの真心がこもったこの手紙は社会制度を乗り越えて「兄弟として受け入れなさい」と教えているからだと思います。

まさに浪速教会は、今の日本社会において「誰もが受け入れられる教会」を実践しているのです。

古代中国の自然哲学である「五行説」には「相生」と言う言葉があります。万物は5つの元素(木・火・土・金・水)からできていてこの5つの元素が良い関係にあることを表す言葉です。木は火を生じ、火は土を生じ、土は金を生じ、金は水を生じ、水は木を生ずる。浪速教会はこの日本社会において「相生関係」を目指して共に生きる社会を実践しているのです。その浪速教会が私たちの関西地方会に属していることは私たちの誇りであり、私たちが微力ながらもお祈りをもって共に歩みたいと願っています。Soli Deo gloria.

宣教チームの訪問

今年は創立記念行事に参加する為に、6月末～7月初めに韓国のクナラという素晴らしい賛美の賜物を用いて宣教活動をする団体から8名が来てくださいました。その後、韓国全州超教派引退牧師夫妻宣教チーム（12名）が7月中旬に訪日していただき、今年の異常な酷暑の中でも粘り強く伝道集会・炊出し等を共にしていただきました。いつも祈り・支援をしていただき心よりお礼申し上げます。



木曜伝道集会・日曜伝道集会

木曜・日曜の伝道集会には約60～100人くらいが集います。その半分くらいの方が自転車で教会に来られます。ここ数年は近くで閉店した銭湯の敷地をお借りして駐輪させていただいていましたが、取り壊されて駐輪できなくなり、考えた末に教会の駐車場から集会の間だけ車を出して駐輪場として提供することにしました。不便かと心配しましたが、利用者の方々は歩く手間が省け、目の届く教会内で自転車があるので安心して利用されているようです。教会の雰囲気も少し変わり、「みんなの教会」らしい雰囲気に近づいたように思えます。3月末にはシオン合唱団のコンサートが行われました。毎年、日本の一番貧しい地域・西成を覚えてくださり、主を賛美する美しい姿を見せてくださり、その賛美は聴く一人一人の心を潤す力があります。また毎年共に来て下さる韓世一(ハ・セイル)牧師任は笑う事の大切さを実際に「わはっは！」と皆と一緒に笑いましょうと大声で笑いながら説教をしてくださり、雰囲気を和ませてくださいました。毎月第1木曜日に定期的に説教奉仕をしてくださっていた平野教会・朴珍烈(パク・チヨル)名誉牧師任が御病気で来られなくなり、失業者の皆さんと共に祈りました。先生が回復されたらまた説教をしたいと金牧師に連絡があった時には感謝しました。9月末にはCGNTVの『聖書の村』でおなじみのJCMスタッフでもいらっしゃる藤田桂子伝道師が「あなたは高価な真珠」と題してインドの物語を通して分かり易くメッセージを取り次いで下さり、失業者の人々は自分の事を真珠だと言ってもらえた喜びから、目を輝かせながら聞いていました。また、藤田先生も日本にこれだけの求道者があつまる教会は見たことがない！と驚いていらっしゃいました。11月末には武庫川教会聖歌隊の皆さんにより特別賛美が捧げられました。その賛美には各々の神様と共に歩む幸せな想いがたくさん込められている事が、表情を見ている失業者の方々には一目で伝わったことと思います。



金曜炊き出し会・衣類提供会

毎週金曜日は教会の近所の西成公園で失業者、野宿者のための炊き出し（おにぎりとお味噌汁）を行っています。最近、こんなことがありました。奉仕者不足から炊き出しのセッティングを手間取っていた時に、失業者のおじさんたちが進んで手伝って下さったのです！「手伝ってくださってありがとうございます」と声をかけると「いつも世話になってるから」とちょっぴり照れた様子。炊き出しをしても、なかなか教会につながってもらえない、それでもいつか、何かが・・・と信じて続けていたからこそその出来事だったのでないかとおもいます。連帯感のようなものを確かに感じる事ができました。金曜日は炊き出しの他にも、季節ごとに衣類や日用品の無料提供もおこなっています。皆様からいただいた支援物資はほんとうにたくさんの方たちの助けとなっています。いつもあたたいご支援に、心から感謝申し上げます。



聖書勉強会

毎年1回、毎週木曜日の夜10時に渡って行われる聖書勉強会。1か月前から失業者礼拝に来られる兄弟姉妹たちに参加を呼びかけましたが、反応はゼロ。でも、諦めずに祈り続け、声をかけ続け、締切日には一気に7人の兄弟達が参加すると言ってくれました。勉強会が始まり、その中で実際に参加しているのは4人です。漢字を殆ど読めない、目もあまり見えていない兄弟もいらっしゃいます。また84歳の女性もいらっしゃいます。今までどのように生きて来られたのかと、その方の今までのご苦労されてきたであろう道を想像し、主の確かな導きがその方にあるようにと祈りを込めながら、信者が傍らで聖書や讃美歌を開くお手伝いをさせていただいています。毎回与えられる御言葉が心に刻まれ力を得ますように。信仰が与えられ神の子となり平安な人生を歩めますように。

教会創立20周年記念礼拝

金(私)牧師・姜(加)師母がゼロから牧教会を始め20年間も野宿者・失業者・病人・弱者に衣食住を提供し、また教会で礼拝を守り続けることができた事を感謝し記念すべく6月30(金)～7月2日(主日)の3日間に炊き出し・伝道集会・メモリアルデー・感謝礼拝をしました。教会がまだ旧会堂で寝る場所もトイレも殆どない建物で船詰め状態で集会をしていた時、韓国から毎年宣教チームを送って私たちを励まし応援して下さい、青年たちにあえて厳しい現実と目の当たりになる体験を与えて訓練して下さった黄炳煥(ワッ・ビョウハク)牧師と賛美チームも来て下さり、共に主の奇跡の数々への感謝の涙を流しながら賛美し礼拝しました。主日礼拝では1～3部の全礼拝において、堺教会・徐聖瓊(ソ・ソギョ)執事による特別賛美を通して神様に今までの感謝、またこれからの歩みも主と共に、という祈りをお献げしました。

(感謝礼拝につきましては、最後のページをご覧ください。)



2017年の全信徒修養会

9月上旬に「堅固な要塞を打ち壊そう」と題し、修養会が氷上祈禱院にて行われました。いつもの生活から離れ、神様との交わりができる絶好の環境でした。金牧師・姜師母が還暦のお祝いを兼ねてハワイでの夫婦セミナーに参加され、そこで受けた恵みを聖書の御言葉を通して分かち合ってくださいました。生まれてから今までの人生で受けた傷によりできてしまった心の中の堅固な要塞は私たち誰にでもあるけれど、イエス・キリストは私たちをしながらみから解放し、主にあって本当の自由を与えるために来られた、私たちは信仰を持って主の中で歩み、いつも喜び・絶えず祈り・すべての事に感謝して互いに励まし合い、助け合っていこうと祈りました。

「教会学校」大好きな子ども達！

毎週日曜日、教会に子どもたちの声が響くのを、私たちは皆楽しみにしています。元気でやんちゃな男の子たちと、本当に仲良しの女の子たちが、毎週日曜日、元気に神様に礼拝をささげています。今年は春に遠足で関西サイクルスポーツセンターに行ってきました！いろいろな自転車に乗って、笑い転げた一日でした。夏のキャンプは合同夏期学校に参加しました。「わたしたちのささげもの」というテーマで行われた子どもたちの夏期学校では、今の自分たちにできる奉仕を考え、礼拝をささげるプログラムでした。浪速教会の子どもたちはドレミパイプで讃美したり、バナー作りに挑戦。他にも宝探しや、バーベキュー、そうめん流しなどを楽しみ、「また来年会おうね！」と他教会のお友達と約束して帰ってきました。子どもたちの優しさとその成長に喜び励まされる毎日です。



奉仕者の声

『 65日間の浪速教会同行記 』

孫裕抵(ソン・ユジン)姉妹
(短期宣教ボランティア)

ハワイ・コナでの8月のある朝、セミナーに参加中だった私たちは金鐘賢宣教師の日本での働きの報告を聞き、このことによって日本への導きを強く感じるようになった。



全く計画になかった日本への旅程、大阪に向かう飛行機の中でのあの震えを今も覚えている。そうしてハワイ・コナから9時間余りの飛行を経て、とうとう大阪関西空港に到着。空港で笑顔の素敵なクオンサニンが母国語で温かく迎えてくださった。知っている日本語といえば「ありがとう」しかない馴染みのない異国の地に着いた私たち。そんな中、言葉の通じない私たちへの浪速の人々の笑顔と、遠くから来たお客として丁寧に迎え入れてくださったその心遣いに感激した最初の出会いを忘れられない。私たちは何か助けになりたかった。共に寝、共に働きながら日常の中で共に呼吸したかった。だからだろうか。私たちは少しずつ彼らの匂いに同化していき、教会の人々の飾り気のないまっすぐな笑顔に溶け込んでいった。一つになるためのぎこちない愛が始まったのだろうか…

離れた場所から手を振ると、立ち止まってしばらく笑いながら手を振り返してくれた彼ら。くしゃくしゃの千円札を差し出され振り払う私に、両手をぎゅっと握りしめながら渡してくれたあの手。薬物中毒で拘置所に収監中の兄弟の誕生日に、寄せ書きメッセージでお祝いを伝えた彼ら。何週か前に家を出た兄弟が帰ってきたときの牧師先生の熱い涙とサモニンの感激、そして信徒たちの感謝。ある日はくし、ある日はとうもろこし、次の日は焼き芋一つで日々幸せで裕福な気持ちにしてくれた彼ら。私たちの一挙手一投足に熱い関心を注ぎ、どんなつたない行動も笑顔で受け入れてくださった彼らを

通して、私たちは「共に生きること」に対する感動で何度も涙ぐんだ。



味噌汁一杯、「おかわりどうぞ、おかわりどうぞ」を叫んだ金曜炊き出し。熱い賛美と御言葉で豊かだった木

曜伝道集会。2泊3日の心静まる9月の信徒修養会。感動賞という栄光の実を結んだ御言葉と賛美のフェスティバル。大阪の風を切って自転車で行き来した愛の家庭訪問伝道。「はやく、はやく」と緊張感でいっぱいだった厨房での皿洗い。そして短く濃い時間を経て、天国への別れに至った出会いまで…振り返ると、自分自身をおろすことのできた65日間の大阪浪速教会での時間は、大切な人々と共に過ごした忘れられない瞬間の連続だった。今年で浪速教会が20周年を迎えるという。涙



で積み上げられたであろうその月日に、教会の人々は共に笑い、共に泣いただろう。こうして彼らと共に築き上げられた祈りの日々は奇跡となり、今日も続いている。温もりを失い飢えていた悲しみ、傷ついた寂しい魂が一つの家族となり、築いていく家。それは愛となった。だれかが「許しとは、愛が不器用な者たちの間で行われる愛の名である」と言った。今日も浪速教会では、弱い姿そのまま、祈りながら互いを耐え忍び、希望を抱くだろう。昨日と同じように。だから私は今日も浪速教会での月夜を覚えながら私自身も祈りの日々、奇跡の日々を夢見る。

浪速教会での65日、感謝と幸せでいっぱいです。愛し、祝福します。皆さんを…

伝道集会定期奉仕者の紹介

第2木曜日

朴栄子牧師〔説教〕
朴多美師母〔祈祷〕
（豊中第一復興教会）

ゴスペル落語



呉蓮実勸士〔特別賛美〕
（大阪北部教会）



第3木曜日

金景淑牧師〔説教〕
吉村俊郎長老〔祈祷〕



第4木曜日

全聖三牧師〔説教〕
（布施教会）



ほぼ毎週木曜日か金曜日

コーリ・ギースブレクト兄〔その他〕
（メノナイト石橋教会）



第2木曜日・第5木曜日

当重茜姉〔特別賛美〕
山田律子姉〔特別賛美〕
澤村悦子姉〔特別賛美〕



定期食材提供奉仕者の紹介

有機野菜を集会の食材に

小山高人兄
萌愛姉
愛犬:チュップ
（ぐるり農園:三重県）



フードバンク関西・フードバンク大阪



臨時奉仕者の紹介

金鐘賢牧師夫妻ハワイ研修期間中

金明均牧師〔臨時牧師:7月29日～8月12日〕



特集 「愛の家」の恩人④ — 金鐘賢牧師

森田 幸男 牧師 (日本キリスト教会 大阪北教会 牧師)

森田幸男先生と私が出会ったのは、2000年のある「愛の家」の金曜伝道集会の時でした。集会に参加して集会の後食事を交えて話し合いました。先生は障害者施設に用事があって来られるとき浪速教会が北津守にあることを調べ訪ねて来られたのですが、偶然その日が金曜伝道集会の日でありました。先生は、ホームレス宣教支援活動に関心を持っておられ、2年間釜ヶ崎で炊き出しボランティア活動を行い、自分の教会も炊き出しを行っておられました。私は初対面でありましたが先生に私達のホームレス宣教支援活動を説明し後援をお願いしました。

先生が浪速教会に訪ねて来られたのは先生が属している日本キリスト教会と私達浪速教会が属している在日大韓基督教会が宣教協約を締結している関係であるからだと思います。先生はそれから私達浪速教会を支援し、友人や日本キリスト教会にも紹介して多くの教会と支援者が支援してくださるようになりました。私達浪速教会「愛の家」は活動を支援者に伝え募金活動を行うため「愛の家」ニュースを発行することになりました。しかし当時、私達浪速教会「愛の家」はコピー機もなく大量の印刷設備がありませんでした。仕方なく森田先生の大阪北教会にお願いしたところ、ニュース・封筒・振替用紙など自ら奉仕をして下さいました。私達が印刷設備を設けるまで先生の助けがあり苦しい時を乗り越えることが出来ました。

浪速教会「愛の家」に少しずつ支援者が増え支援金も集まるようになり、支援金の収支を支援者に報告し支援者の代表が「愛の家」の運営にも参加して頂くように2002年3月18日「愛の家」運営委員会を創立することになりました。その時私は先生に日本側の共同運営委員長をお願いしました。先生は委員長を快く引き受けて15年間奉仕をして下さいました。先生は運営委員会の委員長として沢知恵チャリティーコンサートに協力し様々な「愛の家」の困難な問題や財政的な苦しさを共に担い、「愛の家」の家族として苦しみも喜びも分かち合ってくださいました。

特に2003年から始まった教会堂及び「愛の家」センター建築事業は貧しい信徒の群れである私達の教会だけの力では到底出来ない夢でした。耐えきれない試練もあり私は落胆前に進む勇気がなくなった時もありました。その時先生がそばにいて慰め励まして下さって、私は勇気を出して立ち上がり建築をすすめることが出来ました。

建築は2007年に終わり、2008年に献堂式を行いました。私達は借金返済が終わるまでは重荷を背負わなければなりません。その苦しみを先生は十分理解して下さい「早く返済が終わるように」と祈り励まし協力して下さいました。大阪北教会も財政的に厳しい中で借金返済が終わるまで教会も先生自身も最後まで建築献金をして下さいました。お陰で2015年2月完済し「愛の家」は本業である路上生活者への宣教支援活動に取り組めるようになりました。長年に渡り「愛の家」が自立できるまでに先生が尽くして下さいましたご奉仕を私達「愛の家」は決して忘れません。



「愛の家」会計報告書(2017.4～2017.11)

収入	17予算	17. 4-11	備考
定期後援会	800000	683,000	
一般後援会	1900000	1,115,216	
クリスマス献金	1000000	0	
食事献金	1500000	329,882	
總會支援金	500000	405,000	
御米献金	360000	79,000	
小計	6,060,000	2,612,098	
繰越金	1,925,906	1,925,906	
合計	7,985,906	4,538,004	

支出	17予算	17. 4-11	備考
事務・備品・印刷費	330,000	350,441	
交通費	100,000	800	
車両維持費	300,000	500,000	
奉仕者支援金	1,500,000	418,850	
研修費	150,000	12,000	
御米代	1,000,000	349,728	
副食費	2,900,000	1,655,170	
会議費	30,000	10,074	
発送費	100,000	2,240	
愛の家建築積立金	800,000	0	
救済費	50,000	13,000	
修理施設費・予備費	725,906	20,000	
小計	7,985,906	3,332,303	
繰越金		1,205,701	
合計	7,985,906	4,538,004	

「愛の家」の人々

私達の愛する「愛の家」料理長の

浜村伸二兄弟が天国に召されました。浜村兄弟は「愛の家」ニュース31号の「奉仕者の声」でご自分の証しをされました。お酒をガソリンと呼び、口数が少なく、特に女性とは距離を置く(珍しい?)人でした。黙々と自分の作業をし、時には厳しい言葉をもって働かない若い兄弟に愛の鞭をうって指導していました。失業者集会には旧教会堂の時から15年くらい通い、いつも一番前の席に仏頂面で仲間と座っていた姿を今でもはっきりと覚えています。料理人がいなくて困っている時に助けてくださり、意見が合わなくて一時は疎遠にもなりましたが、時を経て和解をしてからは、その強い責任感から休まずに奉仕して下さいました。そこには自分と同じ境遇に置かれている行き場のない苦しんでいる兄弟たちへの思いがあったように思います。その愛のこもった料理は食べた人たちを虜にして、また食べたいと誰もが思いました。

この数年は目立って痩せて、酷く病気の様子が伺えました。年金を受給して安全な家に住み、病院に受診するように促しましたが、断固として受け入れませんでした。しかし2016年クリスマスにイエス様を信じ洗礼を受ける事ができ、心に平安を得ました。今年9月に受診し即入院しましたが、その体は既に成すすべなく治療方針を相談していました。金牧師がもう一度年金受給を促すと「退院したら先生に全てお任せします」と素直に返事をしました。そして共に祈り大きな声で「アーメン」と言いました。その夜、静かに息を引き取り、天国へと召されました。告別式の時、天国のイエス様の横で全てのしがらみから解放されて満面の笑顔で手を振っている姿が浮かび、「良かった、お疲れさまでした」と強く思いました。でも正直に言うと、もう一度浜村さんの料理が食べたいです。



路上生活者支援のための クリスマス献金のお願い



御子イエスのお誕生を待ち望む季節となりました。支援者の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素より私ども、浪速教会「愛の家」の活動へのご理解、ご協力を賜り、まことに感謝申し上げます。

この一年も主の導きにより、浪速教会「愛の家」は皆様からの多くの愛を受け、またその愛を分かち合う活動ができましたことを心より感謝申し上げます。今年はこの秋に、これまで長い間、「愛の家」と西成の仲間のために食事を作ってくれていた浜村兄弟が天に召されました。これまでの彼の働きに感謝する一方で、これからは誰が・・・という心配もあったのですが、不思議なまでに神さまの備えがあり、働き人を与えてくださり、いままで通り奉仕に励むことができています。また韓国をはじめとする外国からの宣教チームや日本の志のある方々のご奉仕・ご支援、失業者同士の心からの献げ物により、失業者の方たちはもちろん、教会に集う兄弟姉妹、「愛の家」に関わる全ての人々が、心も体も神様の愛で満たされる一年を過ごすことができました。

また今年も、越冬対策夜回りを11月から始めております。だんだんと風の冷たさが身にしみてくるこの季節、路上生活を余儀なくされている西成の仲間を思うと胸が痛くなります。今年も皆が無事に冬を乗り越えていくことができますように、お祈りください。また一人でも多くの西成の仲間が、主に出会い、主に新たにされて、残りの人生を主と共に歩む決心へと導かれますよう、お祈りくださいますよう重ねてお願い申し上げます。

現在、私ども「愛の家」は炊き出しを一週間に3回行っております。金曜炊き出しには毎回約150人～250人、日曜礼拝や木曜集会にも常時100人近くの路上生活者が温かい食事を求めて並びます。炊き出しの実際の経費として、毎週57,000円を支出しております。

(お米50kg・12,000円、副食費45,000円、合計57,000円)

力なく、小さな赤ちゃんとして私たちのもとへとおいでくださった主イエス様のお誕生を喜びこのとき。路上生活を強いられる方々に、御子イエスのお誕生の喜びと愛と希望を届けることができますように、クリスマス献金のご協力をよろしくお願い申し上げます。

「愛の家」事業：金曜炊き出し、木曜集会&日曜礼拝と食事提供、散髪奉仕、共同生活、聖書勉強会、福祉相談、福祉館運営、越冬夜間パトロール、生活用品収集分配

2017年度クリスマス献金目標額：100万円

◇ 定期、一般後援者募集

一般後援：1000円以上、定期後援：毎月1000円以上

◇ 衣類、生活用品、毛布、寝袋、靴、靴、カイロ、食材、お米を送って下さい。

郵便振替：00930-0-299392 在日大韓基督教会 浪速教会

送り先：〒557-0061 大阪市西成区北津守3-2-3浪速教会「愛の家」

Tel 06-6561-4712、6562-0109、Fax 6561-4709

E-mail:ainoie@msn.com ホームページ：www.ainoie.org

2017年12月



在日大韓基督教会 浪速教会「愛の家」

金鐘賢 牧師

献金者お名前(敬称略・順不同)

(2017年4月～2017年11月30日・到着日付)

定期後援金

グッド・サマリタン・チャーチ 尼崎集会・洲本チャペル、大阪東南教会、横浜長老教会、長野教会、全国教会女性連合会、山住達樹、石井洋二、河内常男、金鐘賢、大木正典、金英姫、寺岡孝、古川富也、新国久男、川島美恵子、当重茜、寺岡孝、金景淑、吉村俊郎、朴栄子、匿名

一般後援金

浪速教会、シオン合唱団、大阪教会女性会、武庫川教会聖歌隊、コーラス コモド、コモエスタ、韓国オンヌリ教会、全州引退牧師夫妻宣教チーム、済州ソリム教会、あいする教会、ミオ介護サービス、澄川満喜子、野津道代、ジョン・ジョンヒ、ソル・ヒョジョン、呉蓮実、大谷雅子、伊藤房子、許清子(文野)、中村英雄、久保賢太郎、久野雅未、河内常男、呉蓮実、沢知恵、山田律子、澤村悦子、水野、金鐘賢、匿名

遺産献金

原一男

イースター献金

南浦和教会、島内敏子、宮澤玲子、伊藤友彦、新国久男

創立20周年献金

三徳教会、クナラ、豊中第一復興教会、高槻伝道所、布施教会、平野教会、吹田教会、ホサナ教会、大阪西成教会、今福教会、伊藤友彦、イム・ヨンジン、パク・セウン、金コンス、川島美恵子、李英順

お米、お米献金

神戸布引教会壮年会、大阪北部教会信徒(すぎやす)、徳島教会婦人会、千奉祚、島内敏子、宮澤玲子、佐藤悦子、村本瑛子、小林勝、木村敏子、古川愛三郎、小西恵美、元浦末浩、平野真希、匿名

食材

フードバンク大阪、フードバンク関西、ぐるり農園、大阪北教会、女子御受難会、清水眞一・佐代子、保沢由紀子、崔愛蘭、崔炳鈺、梁ヤン、匿名

衣類、靴、生活用品

武庫川教会聖歌隊、ホサナ教会、北津守町内会、川島美恵子、コーリ・ギースブレクト、今井昌子、韓享春、大倉薫、金英姫、リディア、女子御受難会、保沢由紀子、匿名

花・その他の物品

金英姫、グッド・サマリタン・チャーチ



7月2日浪速教会「愛の家」創立20周年記念コンサート・記念礼拝が主の恵みの内に終わりました。先ず、20年間大阪の地において貧しい隣人と共に生き共に働くことができるようにお導きお守り下さった神様に感謝を捧げます。そして記念礼拝には猛暑にも関わらず、韓国・中国から、KCCJ 関西地方会の各教会の教役者と信徒の皆さんが多く参加して下さいました。日本キリスト教会・大阪北教会をはじめ、関西地域の各教会からも多くの方々が参加して下さいました。古川富也牧師(日本自由メソヂスト・大阪東南キリスト教会)は89歳の高齢にも関わらず参加して下さいました。6/30(金)コンサート、7/1(土)メモリアルデー、記念主日礼拝を通して私は深い恵みと励まし・慰めをいただき、30周年に向けて働いていく勇氣と力を頂きました。御言葉を命の糧として活かしていきたいと思えます。記念礼拝の説教者森田幸男牧師は、**詩編 117:1-2「すべての国よ、主を賛美せよ。すべての民よ、主をほめたたえよ。主の慈しみとまこととはとこしえに／わたしたちを超えて力強い。ハレルヤ。」**を通して、今まで浪速教会の働きを守り導いてくださった神の慈しみと憐みはこれからも永遠に続く私達に尊い御言葉を与えて下さいました。**使徒 2:47「神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」**今まで神は私たちの働きが多くの人から好意を得られるようにして下さいました。これからも私たちの働きが多くの人々に感動を与え好意を得られるようにして下さいように導いてくださると信じます。森田先生は私達の小さき者と共に主の愛を分かち合う働きが、神の国の到来を現すと語られました。最後に**創世記 22章 14節「主の山に備えあり＝ヤハウェ イルエ」**の御言葉によって、主に従って主の道を歩めばと主の山に備えがあると確信させて下さいました。

7月3日、私のテーブルの上に額縁がおいてあるのを見付けて開けてみました。それは森田先生が私達の20周年記念礼拝を祝うために作って持って来られたプレゼントでした。額縁には**「あなたは 善なる方、全てを善とする方」(詩編 119編 68節)**、「**神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。」(ローマ人への手紙 8章 28節)**記されていました。苦難と試練が毎日のように襲って来て先が見えずとも、主は道を開き万事が益となるように導いてくださると信じることで安心して主に委ね従って行くことができるようになりますと力づけられました。

神様は今まで私たちの路上生活者への働きを祝福し驚くべき恵みを与え、奇跡を起こして下さいました。私達が落胆しないで主の愛の業を担い続けると、神は私達の行く道を照らし導いてくださると約束して下さいました。

大阪西成で小さき者と共に生きる、路上生活者への奉仕・貧しい隣人と共に生きる、神様から与えられた働きに忠実に取り組んで参りたいと思っています。

